



[ご挨拶](#)

丘山万里子

1. アクセス解析資料(2019/1/15号～12/15号、2019/12/31現在)
  - ◆ [総合データ](#) 作成：能登原由美&丘山万里子
  - ◆ [海外データ](#)(2019/7/15号～12/15号、2019/12/31現在)  
作成：齋藤俊夫&丘山万里子
2. [第5回年間企画賞\(2019年\)](#) 作成：藤堂清
3. Mercure des Arts メンバー執筆陣による [2019年自選ベストレビュー&コラム](#)
4. 記事一覧 (2019/1/15号～12/15号) 作成：西村紗知
  - ◆ [Select-Backstage-CD-Book-Pickup](#)
  - ◆ [Column](#)
  - ◆ [Concert Review](#) & [Arts Review](#)

参考：[2017年活動報告書](#)、[2018年活動報告書](#)

## ご挨拶

平素より大変お世話になっております。  
おかげさまで本誌も今年で5年目に入りました。現在、関西方面も含め13人のレギュラー執筆陣となっております。さらに、本誌メッセージにご賛同いただく多くの方々からのご寄稿により、クラシック音楽にとどまらない広範な批評的視点を提起しつつあります。これもひとえに皆様のご助力の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、本誌2019年の活動につきまして、ここにご報告いたします。  
アクセス解析データ、年間企画賞、レギュラー執筆陣自選ベストレビュー&コラム、記事一覧を収録しております。アクセスデータにつきましては、2019年7月より海外の読者に向けデータ部分の外国語表記を開始したため、今回は総合版と海外版(約半年分)のご報告となります。海外版では日本の演奏・作品への関心の高さが明らかになっており、大変嬉しく思います。

2019年の活動方針はAbout Usに掲載されておりますが「未来への2つの提言」の若手育成問題については、この1月よりパリ在住のピアニスト金子陽子氏の連載を開始、音楽家への道の新たな視点が提示されます。また「断片でなく思惟へ」に向け、幅広い芸術活動との交流・連携を視野に、2019年10月よりArts 枠を新設、日本在住C・Cicogna氏(伊)の演劇評などを掲載、他分野との出会いの場となればと考えます。評論枠もテーマにより英版、独版(論文)を掲載など世界への発信を試み、確かな反応を得ております。今後はアジア圏へと視野を広げたいと考えます。

また記事のすべてがWARP(国立国会図書館インターネット資料収集保存事業)にて公開・逐次保存され、後世・内外の人々が日本の音楽界の今日の動向を簡便迅速に読み取り得る資料として役立つことに大きな喜びを持っています。

批評というバイアスのもとに、創生と享受の新たな回路を生むべく、制作の現場の方々による『Back Stage』、中堅若手作曲家の方々の『五線紙のパンセ』、海外を含む多様な視点での『コラム』、軟硬テーマでの『評論』、本誌独自のアンテナを反映した公演評『コンサート・レビュー』『アート・レビュー』と、それぞれが響き合い、照応しあうダイナミックな誌面作りへの道は未だ半歩にも及びません。ですが、「批評誌」としての在り方を目指す本誌への読者のご理解とご注目が確実に増えていることをご報告するとともに、何より本誌の基本・基盤である公演評へのご協力に改めて厚く御礼申し上げます。

この4年間の蓄積をもとに、データ・数値主義に陥ることなく、時々刻々更新に追われる消費情報とは異なる読み捨てされない「価値」を追求して行く所存です。

常日頃のご助力への御礼とともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年1月28日  
Mercure des Arts 編集長  
丘山万里子